

モデル事業名	「文化伝統等地域資源を活用した持続可能な地域の形成」-万葉の文化と風土に親しみ、ふるさとおこしに活かす紀伊万葉顕彰事業-
活動団体名	紀伊万葉ネットワーク
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス)
所属/ 担当者名	担当者氏名 (お問合せ先) 事務局長 木村哲也
連絡先	TEL・FAX 0736-22-2953 Eメールアドレス akaneya-tetsu@kit.hi-ho.ne.jp
活動地域	和歌山県伊都郡かつらぎ町笠田地区

● 活動地域の概要

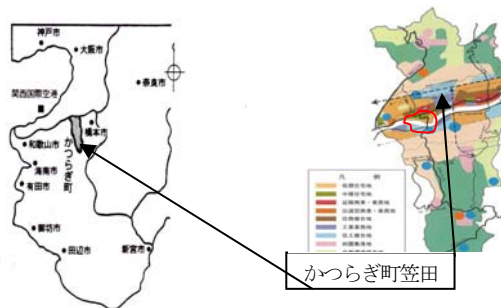
集落の数：9大字

集落毎の人口世帯数の現状推移：(96-07年)世帯数235戸が増え人口2,125人減 一人暮らし増

高齢化率：H21年3月末で32.1%に達しており、中には49.6%の大字もあり、最低大字でも28.6%に達している (かつらぎ町全体では30.7%)。

年齢別人口の現状推移：05年で年少人口28.6%生産人口59.5%年少人口11.9%いずれも年々減

就業割合 05年で第1次産業26%第2次22.4%第3次51.1%第2次産業やや減少傾向



耕作放棄地 妹背山麓竹林

◎ 活動地域の課題

対象地域では、若年層の都会志向と教育・就労環境等の要因による人口流出や地域の高齢化により、耕作放棄地が目立ちはじめ、後継者問題等、主な産業である農業への影響が懸念されているが、具体的な問題の把握には到っておらず、その実態把握と今後への対応策が大きな課題となっている。

他方、昨年総合調査の中で、地域内の個々の取り組みやその存在についての情報が共有されていない実態が判明し、個々の取り組みを総合的に取りまとめ、発信する枠組みが必要であるとの指摘が出されて、その組織化が課題となっている。

◎ 活動の内容

平成20年度

- 現地学習会・朗国会・指導者講習講座の開設・実施(啓発活動)
第3回紀伊万葉ウォーク(藤白・和歌浦)の実施
- 万葉故地の総合調査(文化風土及び古代産業調査)
一般的な啓発・調査活動で地域の再生を意図する「新たな公」としての目標、着地点が見えない状況で終始

平成21年度

1. 紀伊万葉の文化・風土についての啓発事業

郷土の文化・風土への理解や農業への関心を深め、希薄化する郷土意識を育む土曜講座・啓発学習会・地域学習会を実施

- ・土曜講座『紀伊万葉の世界に学ぶ～「地域」に生きる万葉をめざして』

10月3日「さあ、紀伊万葉の世界へ」

11月7日「紀伊万葉の前身」

12月5日「紀伊万葉をささえた道と文化と歴史」

1月9日「あさもよし紀伊万葉に遊ぼう」

2月6日「ふるさとの再生」

3月6日「紀伊万葉文化の継承と定着のために」



和太土曜講座10回「紀伊万葉をささえた道と文化と～南海道、熊野古道～ 講師 藤白神社宮司吉田昌生
12月5日生涯学習教育研究センター

2、「新たな公」笠田再生会議(仮称)準備会活動

主題『若者が定住し活気と文化を取り戻すふるさとづくり』

☆笠田再生基本的方向(素案)作成中

- ①万葉風土・景観を活かした風土産業を創出し、笠田再生のまちづくりを企画・推進実施する。
 - ②その為、万葉歌枕「妹背山」周辺の風土・地域資源を「地域の宝物」として誇る住民啓発と、より磨き輝かせる住民運動を地域ぐるみで推進する。
 - ③特に、万葉植物・観光農園・歴史文化遺産等を訪ね歩き、楽しめるハイキングコースを設定し、いろんな人々の往来するまちづくりをすすめる。
 - ④みんなの知恵を集め地域資源を活かした地域ブランド・生業を創出し、若者が定住できる笠田に再生する。
- 「古代人が歩いた妹背山ハイキングコース」のマップ作成と整備
《さまざまな人々の往来する故郷づくりを目標とする》
楽しめるハイキングコース設定 (①草木花に親しみ ②ロマンと謎を秘める文化歴史を確かめ ③風土を活かして輝く農業の魅力を体験し生産の喜びを共有するコース)
- 啓発資料の作成 ハンドブック「万葉草花木」・「ふるさと笠田」等作成
- 地域資源を活かした研究グループの結成 「地域資源の把握とふるさと再生に活かす自主研究」
これは何ーセンダン(梅檀)ーこれは万葉の木ー苦いー薬に成るらしいー若い人の生業に繋がらないか
荒れ畑に群生する竹もー利用したら宝物になるでーあの人にはノウハウ持ってるーこれこそ生業に
…耕作放棄地の実態調査も大事だが自然の営みを活かす事を考えよう…自然の森づくり
焦らず地域資源を見直す、何かヒントが見つかる。例えば水資源…
- 万葉草花木いっぱい運動企画グループの結成
草花木、一本よりも多く集まったらすごい魅力にー木の実で苗木育てるー皮剥いて蒔く(年寄りの知恵)

● 活動の成果

・平成20年度

『あさもよし紀伊国「ふるさとの万葉故地に遊ぶ」』の発刊、星林高校等の現地学習・実践により、啓発活動の必要性が認識され活動の範囲が拡がり次年度も、市民対象の和歌山大学「土曜講座」開催に至っている。

● 平成21年度

- 笠田地域で、危機的な将来展望を考え、自主的に「笠田再生の中・長期計画を立案・実践する組織化」の論議必要性が芽生えてきたこと
- 意識調査 12月21日笠田高校全校生徒実施集計し分析中
- 地域資源をふるさとの再生の動きの中で、具体的に活かすべき地域資源が見え始め自主的研究グループが組織化しつつあること。
- この動きを支援する専門家(地域経済学・農業経済学・文芸学等)の指導体制ができつつあること。
- かつらぎ町も行政情報の積極的提供等支援協働体制確立
 - △ 農地休耕地等調査、農業センサスと併行して、かつらぎ町が調査予定。
 - △ 農地法の改正に伴い、かつらぎ町全域農地取得要件(下限面積)2反に12月15日から施行され就農条件が緩和されたこと。



● 今後の課題及び展望

・課題

モデル事業で生起する地域・行政課題を、地方財政の厳しい状況にある地方自治体と「あらたな公・笠田再生会議(仮称)」との協働体制を如何にシステム化出来るのかが重要な課題である。

当面、「新たな公」協働提案の立場で、関連行政情報の提供依頼と行政課題としての提案要望を如何に具体的にシステム化するかを協議中である。

・展望

地域資源を活かした地域の自主的団体「笠田再生会議(仮称)」の創設を平成22年度中に結成したい。

△地域資源を活かす地域の自主的研究活動を持続のため組織化したい。

△年一回定例的全国版ウォークイベントを開催し地域ぐるみで元気なふるさとづくりの意識の高揚を図りたい。

△地域資源を集約して「着地型観光」の企画・提案・案内活動を地域に定着させたい。